

年間第13主日 2017.7.2

冷たい水

マタイ10章37-42

(そのとき、イエスは使徒たちに言われた。)

「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。また、自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである。

あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである。預言者を預言者として受け入れる人は、預言者と同じ報いを受け、正しい者を正しい者として受け入れる人は、正しい者と同じ報いを受ける。はっきり言っておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」

説教

Água de beber, Água de beber camará

Água de beber, Água de beber camará

(カタカナで読みをつけると)

アグア/チ/ベベ-ツ/アグア/チ/ベベ-ツ/カマラ

アグア/チ/ベベ-ツ/アグア/チ/ベベ-ツ/カマラ

聞けばたいてい、知っているボサノバの曲の出だしです。直訳すると

「飲料水/飲料水/カマラ (掛け声らしい)」となり、原曲のタイトルは「Água de beber」で日本語では「おいしい水」と訳されました。これが直訳で飲料水というタイトルだったら興ざめしてしまいましたが、「おいしい水」とはなかなかの名訳です。

さて、きょうの福音ですが、弟子たちを派遣するにあたっての励ましの説教

というか、心構えの説教の最後の部分になります。ふさわしくない、ふさわしくないと続き、そのあと受け入れる、報いを受けると耳に痛いことばが続き、さいごに「水」のくだりがでてきます。

そして、これらの小さい者の一人に、弟子であるという名前の故だけで、冷たいものを一杯飲ませてくれる者は、アーメン、あなた方に言う、その報酬を失うことはないであろう。10：42（田川健三訳）

原文では水とは書いてなくただ「つめたいもの」となっています。並行個所のマルコ9：41では「一杯の水」となっているので水を「つめたいもの」とマタイ福音ではいいかえているようです。ボサノバの名曲を飲料水ではなく「おいしい水」と日本語訳するのとおなじような感性なのでしょうか。

この派遣の説教はルカにも並行個所があり、去年のちょうど今頃

（2016/7/3）朗読しました。そのときの説教で、これは福音じゃないよなあと否定的な見方をしています。わたしには弟子派遣の説教はイエスのことばとしてどこか素直に受け取れないところがあります。そこで、ルカの福音には書いていないけれど、マタイ、マルコの並行個所にはでてくる「一杯の水」に注目しました。

42節では一杯の水を飲ませる人、飲む人がでてきます。飲む人はイエスの弟子です。そして飲ませる人、つまり水を提供する人は派遣された弟子ではなく、ふつうの人？弟子の説教を聞いた人？苦労している弟子をねぎらう人？くわしい説明が書いていないのでよくわかりません。弟子たちは一杯の水をめぐんでもらい、渇きをいやすという報いを受けることができます。そして水をめぐんだ人も報酬を受けると書いてあります。めぐんでもらった人も報いをうけ、恵んだ人も報いを受ける、双方ともにいい結果となるのだといっています。ちょっと前を見てもみますと、

あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである。10：40

ややこしい言い方ですが、あなたがた＝弟子たち、わたし＝イエス、わたし

を遣わしされた方＝神となります。そして「あなたがたを受け入れる人」というのは弟子たちの話を信じる人と解釈できるとおもいます。弟子を信じた人はイエスを信じたことになり、そして神を信じる人となる。そして弟子に水を差しだすと報いを受ける、永遠のいのちをうける、ということになるのでしょうか。

考えていくとこんがらがってきますが「一杯の水」「つめたい水」「おいしい水」どのような水でもいいのですが、「水」に象徴されるなにか、それが「十字架を担う者」「自分の命を得る者」「報いを受ける者」につながっています。

いまの季節、暑い日が続きます。つめたい一杯の水は命を生き返らせます。マタイの福音を読んでもなんかこんがらがるところがありますが、水を口にするとたびにきょうの福音を思い返すことができるといいなあと思います。そして一杯の水を提供できるようになれば、もっといいのかなあと思います。
